埼玉大学紀要　教育学部，65（1）：25−35（2016）

大学生の授業におけるチーム固定による効果について

―球技・バスケットボールの事例より―

小野寺　恵　介　　埼玉大学教育学部教育学研究科大学院
松　本　　真　　埼玉大学教育学部保健体育講座

キーワード：大学生、チーム、固定、球技、バスケットボール

1．序論

体育の現場において2000年以降から、「仲間との関わりあい」について多く研究や報告がなされている（松本，2005）。松本は、仲間との関わりあいを主眼に置いた授業を展開して、水泳、フラッグフットボール、チャレンジ運動といった様々な状況下で互いにアイディアを出し合い、学び合う環境の作成の成功を報告している。仲間と関わり合う環境、学び合う環境を作るために、グループ分けやチーム分けは大切な要素であることはいうまでもない。体育や大学の実技の中で、チームを分けた後、同じチームで複数回試合を行うか、または毎回チームを変えるかは生徒・学生にとって影響を与える一要因である。チーム内の関わり方に注目をした岩永らの実践研究(2013)では中学校の第２学年に対し、「チームを固定」してバスケットボールの活動を行っている。その中で、形成的授業評価を行い、授業が生徒同士の関わりにどのような影響を与えたのか、更に、生徒自身が授業をどのように感じたのかについて、「成果」「意欲・関心」「学び方」「協力」という視点から評価分析をしている。この研究は、チームを固定した効果に着目するというより、生徒同士の関わり合い方と、授業評価の関連性について考察したものである。さらに、教材開発の研究においても、リレーの教材開発を行った宮内ら（2012）の研究をはじめ、バスケットボールのアウトナンバーの研究（鬼沢ら，2008）などでもチームを固定して行っている。この様に、学校現場では単元ごとにチームを固定して行うことが多いと言えるだろう。ただ、チームを固定して行ったことに対する、直接的な生徒や学生の意見や感想の報告や研究は筆者の知る限りされていない。更に、チームを固定した中での研究や実践報告などでは小泉らが行った大学生に対するバスケットボールの対決情況に依拠した戦術指導の研究（2008）などがあるものの、研究は高校生以下のものが多く、大学生の研究は少ない。高校以下の学校現場では、クラスがあり体育の活動をクラス単位で行っていることが多い。これは、名前と顔が一致していて、お互いのことを知っている中での授業になる。一方、大学生は、多くの場合授業ごとに参加する学生が異なる。つまり、特定の授業のみでしか会わない学生もいる中での活動ということになる。そこで、本研究では、そのような特徴をもった大学生に対する「チームを固定」することが、学生にどのような影響を与えたのかについて考察していく。また、全８回の授業を２組実践した中で、浮かび上がってきた、チームを固定するときのメリットや留意点について報告したい。

2．方法

2-1　被験者及び実施期間

本研究では、2015年度、前期に行われた、S大学の教員養成課程の授業「体育概説」の２つのクラスにおける、球技・バスケットボールの授業への参加者を対象とした。本授業では、90分間の授業を全８回行った。授業は週１回行われた。授業参加者数は合計149人であり、授業参加者に対して、アンケートを実施したが、そのうち有効回答数は147人であった。参加者の男女比率、及び小学校以降の体育以外におけるバスケットボール経験は以下表に示した（表１）。

表１　参加者の男女比率・バスケットボールの経験

	男子	女子	計
クラス１	24（５）	50（５）	74（10）
クラス２	25（５）	50（９）	75（14）
計	49（10）	100（14）	149（24）

（）内はバスケットボール経験者の数（小学校以降に週３回以上１年以上の経験者）

2-2　授業内容及びチーム分け方法

初回の授業時に、オリエンテーションとして授業の進め方及び注意点を説明するとともに、アンケート調査を行い、チーム分けを行った。そして、チームを固定して残りの７回の授業を行い、最後の授業後に、チームを固定したことに対するアンケート調査及び、無作為に抽出した５人にインタビュー調査を行った。

(1) チーム分け方法

チームを分けるためのアンケートとして、Elferink-Gemser et al.（2004）が作成したアンケート票を和訳したものを使用した(表２参照)。本アンケート票は、invasion game(ゴール型ゲーム)の戦術技能を測るアンケート票として作られている。なお、このアンケート票は、多くの実験に使用されているものである（e. g., Kannekens et al., 2011; Gray et al., 2011)。Elferink-Gemser et al.が作成したアンケート票はプレーについての比較が、年代のトッププレーヤーだったが、本研究では、未経験者がほとんどということもあり、比較基準を未経験者一般レベルとし行った。和約は、過去にプロバスケットボールチームの通訳の経験があるものが作成をした。また、完成した和約に対して、他の通訳経験者にチェックをしてもらい、予備調査として、無作為に５名を選出しアンケートを行った。予備調査の結果分かりづらい日本語を修正し、再度別の５名に対し予備調査を行った。予備調査の結果、和訳したものも大学生における授業に十分適応可能だと判断し、本アンケートをチーム分けに使用をした。本アンケート票では、質問項目「１、２、４、５、７、８、９、10が保持と判断」「３、12、13、14が変化する状況に対する行動」「16、17、18、19が行動に対する知識」「11、15、20、21、22が周囲に対しての気づき」を測るものである。これらの点数の合計を戦術技能の得点とした。また、参加者全員に小学校以降の体育以外でのバスケットボール経験についてもアンケートをとった。なお、本授業では実技テストを行い、チーム分けを行うことは時間数の関係上厳しかったことから、本アンケートによる戦術技能を各個人のバスケットボールのレベルとして扱った。

本授業それぞれの第１回目の活動において、アンケート調査を行いその得点に基づいて、上位群と下位群（１クラス各６で合計12チームずつ）半数ずつに分けた（各チーム6.2±0.4人）。この時男女の割合が上位群、下位群均等になるように考慮した。２つのクラス両方において、全てのバスケットボール経験者の解答は、上位群に含まれるものだった。そして、上位群の中で、男子、女子それぞれアンケート結果に基づき順位をつけ、機械的に上位群内の６チームの点数が均等になるように振り分けた後、バスケットボールの経験者の人数が均等になるように再度調整した。クラス１では上位群には最低１人もしくは２人、クラス２では２人のバスケットボール経験者がチームに内に居るように振り分けをした。下位群においても、同様な方法で振り分け、アンケート結果による得点ができるだけ均等になるようにした。

表２　戦術技能を測るアンケート票

	あなたの年代のバスケ未経験者、一般レベルと比較してお答えください。	あてはまらない	ややあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
1	試合中、プレーの判断が基本的に的確である	1	2	3	4
2	試合中、ノーマークになる方法がわかる	1	2	3	4
3	試合中、相手プレーヤーが保持しているボールを奪うのが上手である	1	2	3	4
4	試合中にボールを扱うことが上手である	1	2	3	4
5	全体的に攻めるのが上手である	1	2	3	4
6	プレーを予測するのが上手である	1	2	3	4
7	瞬間的に正しい判断をするのが上手である	1	2	3	4
8	（今までの経験で）私の指導者（体育の先生等）は、私がバスケットボールを理解していると思っている	1	2	3	4
9	試合中、ノーマークになったり、的確な場所に動いておいたりするのが上手である	1	2	3	4
10	（今までの経験で）私の指導者（体育の先生等）は、私のポジショニング（位置取り）が上手であると思っている	1	2	3	4
11	試合中、相手のプレーをみて、批評することができる	1	2	3	4
12	試合中、相手チームからボールを奪うことが上手である	1	2	3	4
13	試合中、自分達のチームから相手チームのボールへと変わった時に、すぐに守りへと切り替えることができる	1	2	3	4
14	試合中、相手チームボールから自分達のチームのボールへと変わった時に、すぐに攻撃に切り替えることができる	1	2	3	4
15	相手がどのようにプレーしているかわかっている	1	2	3	4
16	味方にいつパスすべきか、パスすべきでないかわかる	1	2	3	4
17	自分達のチームがボールを持った時（ボールを相手チームより取ったとった時)、私が何をすればよいかわかる	1	2	3	4
18	試合でプレーをしている時、次に何をすべきかがわかる	1	2	3	4
19	私がボールを持った時、誰にパスを出せばよいかわかる	1	2	3	4
20	相手を見なくても、相手がどこに動いているかわかる	1	2	3	4
21	チームメートを見なくても、チームメートがどこに動くかわかる	1	2	3	4
22	相手の選手がボールをキャッチした時、その選手が何をするかわかる	1	2	3	4

(2) 授業内容

本授業はバスケットボールの指導経験20年の教員および、TAとしてバスケットボールが専門の中高の保健体育教員免許を有する者２人によって行われた。最初の授業はガイダンス及び座学を行い、次の回が試しのゲーム、そして残り６回では、練習及びふり返りの試合を行った。１クラスの人数が70人以上とバスケットボールの練習を行うには多かったため、上位群３チーム下位群３チームを１グループとし、２グループに分けた。各グループが、全６回の指導のうち３回ずつ、教員及びTAの元指導を受けた。一回の内容としては、出席確認及び準備体操(10分程度)、練習(40分程度)、試合（25分程度)、ふり返りと連絡及び片づけ（15分程度）という内容であった。各チームの試合時間は３分ハーフ（計６分間）であった。詳しくは、表３のとおりである。なお、チームは全ての間固定して行った。練習時も必要に応じて、教員及びTAはチームで練習させることを取り入れた。

表３　授業内容

授業	１グループ（上位群・下位群３チームずつ）	２グループ（上位群・下位群３チームずつ）
1	オリエンテーション及びチーム分けようアンケート（戦術技能調査アンケート）	
2	試しのゲーム　試合	
3	チームでの攻め方の指導①　試合	アウトナンバー指導①　試合
4	チームでの攻め方の指導②　試合	アウトナンバー指導②　試合
5	チームでの攻め方の指導③　試合	アウトナンバー指導③　試合
6	アウトナンバー指導①　試合	チームでの攻め方の指導①　試合
7	アウトナンバー指導①　試合	チームでの攻め方の指導②　試合
8＊	アウトナンバー指導①　試合	チームでの攻め方の指導③　試合

＊第８回目終了時にアンケート

2-3　アンケート及びインタビュー

(1) アンケート

全８回の授業の終わりにアンケート調査を行った。アンケートでは授業でチームを固定して行なったことについて質問をした。アンケート項目は以下のとおりである（表４)。また、４の理由について自由記述をしてもらった。更に、チームを固定したことについて感想や意見を自由記述してもらった。

表４　事後アンケート項目

1.	チームを固定することは､周囲と仲良くなることに役立ちましたか。	はい	変わらない	いいえ
2.	チームを固定することは､バスケが上手くなるのに役立ちましたか。	はい	変わらない	いいえ
3.	チームを固定することは、バスケを理解するのに役立ちましたか。	はい	変わらない	いいえ
4.	本授業で固定したチームと、固定しないチームで行った場合、どちらが良かったですか？	固定	どちらともいえない	固定しない

このアンケートに対する結果を割合で算出し考察を行った。また、これらのデータに関して、男女差及び上位群下位群内での割合を算出した。また、自由記述に関しては、結果に対する質的な理由を考察するために行った。

(2) インタビュー

上記のインタビューに加え、承諾のとれた６人の授業参加者に対して、インタビューを行った。

インタビューの中では、アンケートの解答をもとにして、解答の理由を明らかにすることを目的として行った。各インタビューは５分程度のものであった。インタビューに関しては、iPhonのボイスレコーダーで録音をしてインタビュー内容を、wordに文章として文字に起こし、考察をした。

３．結果

チームを固定することによる影響についての結果は以下の通りである。

3-1　アンケート結果

結果は以下図１～４のとおりである。

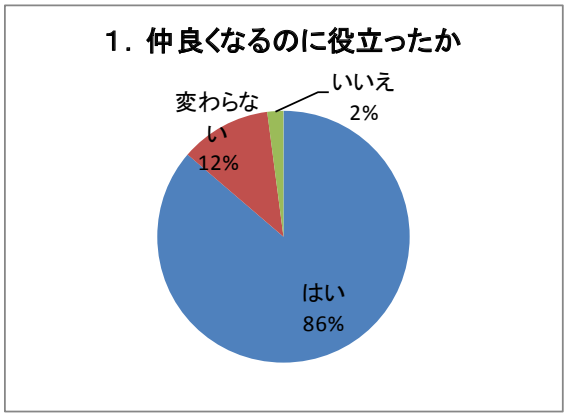

図１

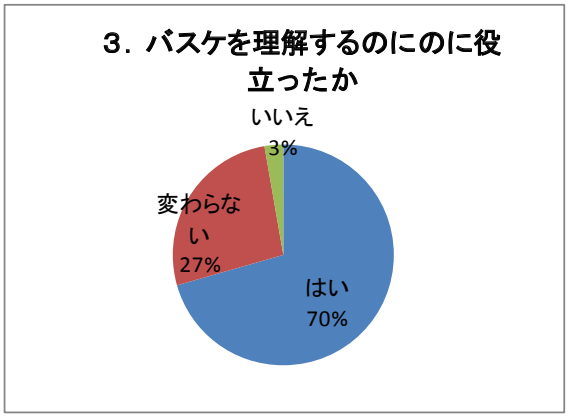

図２

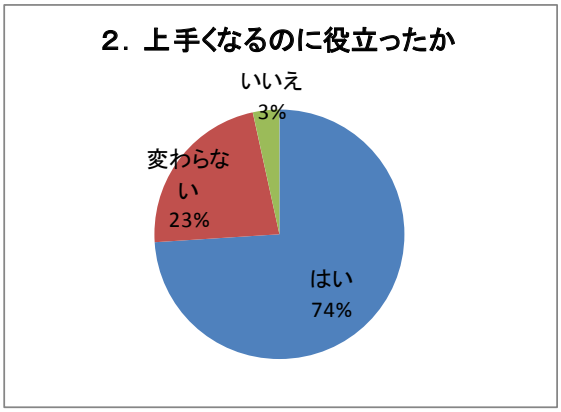

図３

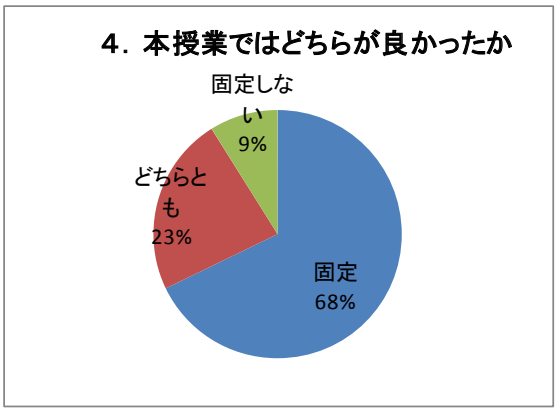

図４

なお、男女差や習熟度別による明らかな差はなかった。特筆すべき点として、本授業で固定しない方が良かったと回答した人が全体で13人居た中で９人が３チーム内（全24チーム）の人に集中していた。

3-2　自由記述インタビュー

(1) 本授業ではどちらが良かったかについての理由

上記のとおりアンケートにて「４．本授業で固定したチームと、固定しないチームで行った場合、どちらが良かったですか？」という問いに対し、「固定・どちらとも言えない・固定しない」のいずれかに丸をつけて解答してもらったものに加え、その理由について自由記述してもらった。図４

の通り固定の方が良かったと答えた割合は68%、どちらとも言えないが23%、固定しないが９％であったが、その理由についての自由記述は以下のとおりである。似たような記述に関しては省略をし、抜粋したものを以下に記した。

固定したほうが良かった
・固定の方が協力しやすい
・チームでの役割が決められるから。
・戦術が組みやすく、どのチームも上達したから
・その方が仲良くなれるから。
・目的や課題に取りくみやすい。
・チームメイトの特性を知った上で自分に何ができるかを考える時間が多くなるから
・いつも同じなので、出る順番を決めて、平等にできたから
・固定しないチームだと毎回気を遣ってしまうから。
・人見知りなので、数を重ねることで周囲の人と仲良くなれたと思うから。
・チーム内でのポジションを理解できるから
・全然知らない子ばっかだったけど７回の授業で仲良くなれた。メンバーの特徴がわかった。
・満足感を味わえるから
・次第に協力がみられたので

どちらとも言えない
・チームメートであうあわないがあるから
・固定すると自分の役割ははっきり分かれるがそのポジィションだけになってしまうから。
・たまには違う人とやってみたかった。
・他の人とも同じチームとしてプレーしたい気持ちもあるから
・固定すると決まったポジションしかしないから
・固定しなくても友達が増えることはあると思う
・人によってチームの雰囲気も変わり、学べることも増えそうだから。
・固定しない場合もコミュニケーションなどを向上させることができるから
・固定しないことで、様々なプレーを見れるかもしれないから。
・固定しないチームでやらなかったので比較しにくかったです。
・どちらも良いところがあるから。

固定しない方が良かった
・他の人ともプレーしたいから
・もっとたくさんの人と関わってみたかった
・いろんな人と話せてプレイできるから
・同じ人とやると、あまり出来ないから、パスをしないでおこうとか、考えると思うから。
・もっといろんな人ともバスケをしたかったから
・ゲームの中の動きが同じようなものばかりになってしまう

(2) チームを固定したことについての自由記述

アンケートでは、チームを固定したことに関して、感想や意見について自由記述してもらった。以下感想や意見の抜粋である。

・長く一緒にプレーすることで、チームメイトのプレーの特徴がわかってきてどのようなパスを出せばよいかなど分かるようになった。
・チームで仲よくなれてより楽しかったです。
・誰がどう動くかが固定化されて動きやすくなった。
・チームスポーツの力をつけるなら固定の方が良い
・体育の授業だったらコミュニケーションもとれるし良かったと思います。
・全て同じ人ではなく、３チームくらいでシャッフルしたほうが良かったと思う。
・息があってくるようになるのでいいと思った。
・固定したことで、集中や練習などで、授業の流れがスムーズになったと思う。
・毎回同じチームだったのでたくさん支えてもらいました。何にもできなかったときも「おつかれ！」などいってくれたりしました。
・固定したことによりチームの人たちと仲良くなれたし、協調性も固定しないよりも身についたと思います。
・この人はこんなプレーをするとか理解しながら試合に臨めたので、楽しくできてよかったです。
・仲間意識が深まり、回数を重ねることで本音を言い合えるようになってどんどん楽しくなった。
・３回ごとにチームを変えてもよかったと思う。
・たくさんの人と同じチームでプレーすることがあってもいいように思う
・そのチーム内の人と少し仲良くなれてよかった。
・固定しすぎてよくないと思った。
・協力しようという思いが強くなるので良いと思いました。
・７回全部同じもよかったが半分くらいでかえてまたちがう人と関われるのもいいと思った。
・チームも楽しかったが１回チーム替えもしてみたかった。
・１回きりだとそんなに仲良くなれないけど固定では交流ができる
・チームを固定しない方が多くの人と一緒にプレーできたと思います
・チームを固定したことで、他のメンバーの動きを予想して自分が今何をすべきかを考えやすかったです
・初めはバラバラだったけど、今日はみんなで一つになってプレーできるようになってうれしかったです。
・パスを回すうえでもチームワークは大切だと考えるから、固定の方がいいと思う
・７回を通して慣れていくことができた。
・「チーム」であるからには、お互いを少しでも理解していた方が良いと思うので、固定すべきだと思う。
・同じチームや一緒に練習したチームの人と仲良くなれて良かった。
・お互いに反しやすい環境ができていて良かった

3-3　インタビュー

後日、インタビューを行った。承諾を得た５人に回答してもらったアンケートをもとに、より具

体的にチームを固定したことについて尋ねた。インタビューの結果としては、選出した５人はおおむねチームを固定したことによる有益な効果を実感していたと言える解答であった。ただ、固定したことで他のチームの人と仲良くなる機会が減少したと指摘したものもいた。５人の中で共通に出てきたこととして、「チームが仲良くなってから、バスケの内容について話すようになった」ということである。また、回を重ねるにつれて、仲が良くなりバスケットボールの内容について教え合ったり、練習でやった内容をチームで生かそうしたりするようになっていったと述べていた。ただ、チーム毎に仲良くなった度合いには差があったと述べた者もいた。

４．考察

4-1　チームを固定することのメリット

チームを固定したことについて、アンケートでは「仲良くなるのに役立った」「バスケが上手くなるのに役立った」「バスケを理解するのに役立った」という３つの項目すべてで「はい」と答えた人が70％を超えたことから、おおむねチームを固定することが、仲良くなり、バスケを理解し上達するのに役立つと言えるだろう。チームを固定することによって、仲良くなるのに役立つだけでなく、バスケを理解したり上達したりするのに役立ったという理由としては、インタビューから「仲良くなる→教え合う」という環境ができていったということが理由としてあげられる。また、お互いのプレーについて理解しあうことにより、作戦が立てやすいことや、一体感が生まれることもメリットとしてあげられ、これにより、味方に気遣ったチームプレイが生まれるようになったといえる。

4-2　チームを固定する上での留意点

本研究でチームを固定する上でのいくつかの留意点が明らかになった。まず、上手くいっていないチームに対する配慮である。「チームを固定しない方が良かった」と回答した13人の内９人が３チーム（全24チーム中）に集中していたことから、生徒同士で上手くいっていない場合は、教員がサポートをし、改善することを手助けすることや、場合によってはチームを変えることも考えるべきであろう。また、ポジションが固定化してきてチームプレイが生まれやすくなり各チームのチーム力が上がる一方で、同じ動きしかしなくなることや、他の人との交流の可能性が減少することも考えられるので教員は配慮が必要である。

4-3　総合考察

本授業でチームを固定したことはアンケート結果、インタビューから有益であったと言える。また、チームを固定することにより、チームの仲が良くなり、プレーの理解上達に良い影響がある。ただ、チームを固定することにより、問題を抱えているチームがその状態が続いてしまうことや、プレーが固定化してしまうことなどもある。教員が学生の状況を見極め、状況に応じて変化させていくことなども必要である。

５．今後の研究の課題

本研究には今後の研究の課題がある。まず、本研究ではチームスポーツの中でも球技・バスケットボールを扱った。チームスポーツといっても、陸上のリレーなど球技のみではなくその幅も広く、それぞれのスポーツで特性が違う。さらに、学生数が多く、練習方法も２人の教員に３回ずつ教わるという状況であった。今後、他の競技や練習方法の違う状況下でのチーム固定が与える影響について研究していく必要がある。次に対象については、今回は大学生とした。大学生の特徴としては、学生ごとに時間割が違い、学生同士は週一回のみしか会わない学生もいる。その中で７回の実技でチームを固定したが、中学生、高校生は多くの場合クラスがあり、お互い見知った間での授業であるケースがほとんどである。それ故に、今後は本研究と同様の研究を、年代の対象を変えて行っていくことは意義のあることだと考える。そして、今回のチーム分け方法では、クラス内で技能レベルにひらきがあることを考慮し、習熟度で上位群と下位群に分けてチーム割り振りをして、授業を行った。これにより、技能レベルがより自分に近い集団であったということが、アンケートの結果に影響したとも考えられる。そのため、チームをどう割り振るかについての方法の影響を調べていく必要がある。さらに、今回はチームを固定した授業のみ行ったが、固定せず実際に授業を行い比較するということはしなかった。今後、チームを固定せずに行った場合の上達度や、生徒の感想などを比較し、より本研究の内容を深めていきたい。

６．まとめ

本研究では、大学生の球技・バスケットボールの授業においては、チームを固定することがチーム同士の中を深め、教え合う環境ができることにより、上達や理解に役立つということが示唆された。一方で、教員はチームの状況を見定め、上手くいっていないチームはないか、またプレーが常に固定化されていないか見定める必要があることが明らかになった。今後、他の競技や年代及びチーム分け方法のもとに研究を進めていく必要があると同時に、チームを固定しなかった場合との比較なども行っていく。

謝辞

本研究をおこなうにあたり、体育概説への参加者および、松本真先生、TAの大山君に多大な協力をいただいたことに感謝いたします.

引用文献

Gray, S., & Sproule, J. (2011). Developing pupils' performance in team invasion games. *Physical Education and Sport Pedagogy, 16*(1), 15-32.

岩永智子，堤公一，and 福本敏雄.“体育授業の学習ノートから探るチーム内のかかわり方の在り様について：中学校第２学年「バスケットボール」の授業を通して.”*佐賀大学教育実践研究 29*（2013）：203-208.

Kannekens, R., Elferink-Gemser, M. T., & Visscher, C. (2011). Positioning and deciding: key factors for talent development in soccer. *Scandinavian journal of medicine & science in sports, 21*(6), 846-852.

小泉昌幸，and 土田了輔.“対決情況に依拠したバスケットボールのTactical Approachが大学生の学習

に及ぼす影響.”(2008).
松本格之介.(2005).仲間の関わりの育成に着目した小学校体育授業の事例的研究.びわこ成蹊スポーツ大学紀要,15(2),99-112
宮内孝, & 中武稔.(2012).小学校におけるリレー学習の教材づくりとその検討.*Journal of The Human Development Research*,2,97-105.
鬼澤陽子,小松崎敏,吉永武史,岡出美則, &高橋健夫.(2008).小学校6年生のバスケットボール授業における3対2アウトナンバーゲームと3対3イーブンナンバーゲームの比較.*体育学研究*,53(2),439-462.

(2015年9月29日提出)
(2015年10月7日受理)

The Influence of Fixed Teams in a University Class:

A Case Study of Basketball

ONODERA, Keisuke
Master Course Student of Faculty of Education, Saitama University
MATSUMOTO, Shin
Faculty of Education, Saitama University

Abstract

This paper investigated the effects of fixed teams in two university class of basketball for students. Recently many studies focused on relationship between students in a physical education class and they suggested importance of good relationship among learners to learn from each other. Few studies have been done, however, the influence of how we make teams in a class. Especially none of the study has focus on the university students so far, as far as I know. Therefore, I surveyed the influence of fixed teams in the two basketball classes in a university. Totally 149 students participated in two class and each had 8 class in the semester. First of 8 classes, we sent out questionnaires to check students' tactical skill of basketball. Then we divided the teams from the results. Each team has 6 or 7 players and we did not change in all 8 classes. In the last class of this semester, we sent out questionnaires to investigate how student feel about the fixed teams whole time. Also I chose 5 students at random sampling to have interviews. In the interview, I ask reasons why students liked or disliked fixed teams. The results suggested that overall to fix the team made good relationship between students, improvement of skills and knowing ball game. On the other hand a few team had a problem and in the teams students wanted to change the teams more than the other teams. Also when we fix the teams, students can find their roles easier than not fixed, but these students may not try the other new roles. Teachers should think these advantage and disadvantage of fixed teams when they make teams in a class.

Keywords: university students, team, fix, ball game, basketball